

松江クロード

4 みんなのやさしいおやつ

【会社概要】
所在地 松江市上乃木7-10-6
電話番号 0852(26)7540
事業内容 洋菓子製造・販売
代表取締役 鶴田桂子
従業員 14人



にしもと氏の看板の前に集う、20~70代までの幅広い年代のスタッフたち
(後列右から2人目が鶴田桂子社長)=松江市上乃木7丁目、2026年2月

2018(平成30)年に創業40年を迎えた(有)松江クロード(松江市上乃木7丁目、鶴田桂子社長)は、紙袋や包装紙などパッケージ類を刷新した。中でも白地に赤いらせんを施した「出雲縁結びぼうる」は、20(令和2)年に日本パッケージデザイン大賞2021で入選を果たした。21(同3)年より「基金百貨店プロジェクト」にも参加。同商品を一箱売り上げること5円(ご縁)を松江市共同募金会へ寄付している。さらに同商品は、25(同7)年に飲食店情報を集めたサイト「ぐるなび」が運営する「接待の手土産セレクション」でも入選。徳島県産の特上和三盆糖をまぶした品のある甘さや「縁結び」という響きなどが評価された。

新社長で再スタート

創業者である栄治の死後、同社の社長は栄治の長男・鶴田孝



小泉八雲にちなんで商品開発した「KWAIDANスイーツ」



ぐるなび接待の手土産セレクションで入選した「出雲縁むすびぼうる」

太郎が務めていたが、孝太郎の進路変更に伴い、栄治の妻の桂子(75)が社長に就任。同時に栄治と桂子の長女、石川理早(50)も専務に就任した。幼い頃から休みなく働く両親の背中を見て育った石川は、家業とは別の道を選び、神戸で学んだ後、地元金融機関に就職。約10年間勤務したのちに退職し、その後は松江クロードで販売や経理を担当する中で、次第に経営にも携わるようになっていった。

しまねいきいき雇用賞

20(同2)年に働き方改革が始まると、全ての企業に従業員の労働時間の短縮や働きやすい

小麦粉、卵、牛乳なし商品開発 小中校生1万3千人に届ける

曜定休に加え、月曜も定休とし、週2日の定休体制をスタート。これら一連の取り組みにより同年、しまねいきいき雇用賞を受賞した。

一方、定休日が増えたことによるお客さまの不便を解消するため、お菓子の自動販売機「COCOPOKKE」を導入した。「長らく月1回の定休日、夜も遅くまで開けていました。営業時間短縮を知らずに来店され、引き返されるお客さまの姿に申し訳なさを感じたことから何とかできないかと思い、自動販売機の設置を思いつきました」と石川。焼き菓子に加え、規格外のケーキを割安で中身を見せずに販売する「SDGs生ケーキガチャ」、透明なボトルに生スィー



学校給食から生まれた「みんなのやさしいおやつ」



24時間購入できるお菓子の自動販売機「COCOPOKKE」

ツを入れた「ケーキ缶」なども販売。年中無休・24時間稼働のため、定休日だけでなく早朝や深夜に訪れる客も多い。さらにオンラインショップも開設。子どもの頃から同社の洋菓みに親しみ、都会に移住後も電話注文していた人たちから歓迎された。

「給食で」の依頼が契機

24(同6)年に松江を愛した作家小泉八雲の『怪談』出版120周年に合わせ、同社もこれにちなんだ商品開発を始める。3月には「かっぱ缶」と「ゆきおんな

缶」を、10月には5種の妖怪サブレ入り「KWAIDAN缶」を発売した。現在、いずれも1500缶を超える人気商品になっている。

25(同7)年3月には、NHK連続テレビ小説「ばけけ」の放送に向けて「ヘルンサブレ」八雲とセツの英語レッスン」を発売。八雲とセツの温かさやユーモアが感じられる「ヘルン言葉」をサブレにプリントした。商品を見た松江市中学校の給食の先生から「給食で出したい」と依頼が来たことをきっかけに、さらなる新しい商品開発も始めた。「これまでもアレルギー対応

のお菓子のご要望はありましたが、バターや牛乳を使わないとおいしくできないという思い込みから、お断りをしてきました。でも「松江市の子どもたちが、みんな一緒に笑顔でクッキーを食べる姿」がすぐに思い浮かび、ぜひ実現したいと思いました。2カ月という短期間でしたが、スタッフ全員で取り組み、小麦粉や卵を使ったクッキーと比べても遜色ない、おいしいクッキーを1万3千人の松江の子どもたちに届けることができました」と石川。「みんなのやさしいおやつ」が完成したとき、栄治社長の笑顔が自然と思い浮かびました。栄治社長なら、きっと同じ思いでこのお菓子を作っていたと思います」と企画段階から開発に携わった、製造部長の加藤秀二(47)も笑顔を見せる。

「みんなのやさしいおやつ」を学校給食として提供した後、店頭やSNSには、保護者や教員から多くの感謝の声が寄せられた。子どもたちからは「めっちゃうまい!」と大好評。大きな反響が広がり、家族とともに来店する姿も多く見られるようになった。「さまざまな理由で、同じお菓子を食べられなかった子どもが、友だちや家族と同じお菓子を囲み、同じ時間を過ごせる。『みんなのやさしいおやつ』は、そんな時間をつくることができる」と感じました。日本中にいる、このお菓子を待っている子どもたちに届けることが目標です」と石川。25年には「自然に笑顔がうまれる世界を作る。」とする経営理念も明文化した。「創業47年目にして初めて作成しました。父が持っていた厳しさの中にあるやさしさ、いつも支えてくれる社員のやさしさ、長年通ってきたるお客さまのやさしさ。そのやさしさをしっかりと受け取り『やさしさをお菓子というカタチに変え、その思いを届けること』がクロードの存在意義と想っています」と石川が語る。「街のケーキ屋」としてあり続ける一方、「みんなのやさしいおやつ」で新たな挑戦をする。松江クロードはさらなる一歩を踏み出した。



しまねいきいき雇用賞を受ける鶴田桂子社長(右端)=2022年、島根県庁

(文中敬称略)
—おわり—
(フリーライター・内藤潤)